

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 STERRAD™ Hydrogen Peroxide Booster [ステラッド過酸化水素ブースター]

供給者の会社名称, 住所及び電話番号

販売元:

会社名 ASP Japan合同会社
住所 東京都港区港南2丁目15番2号
国 日本
電話番号 03-6712-1011
メールアドレス ASP-JPQA@asp.com
24 時間緊急電話 24時間緊急電話 KEMTREC 日本 : 03-4520-9637 CCN 795874
CHEMTREC - 国際: +1-703-741-5970

製造元:

米国会社 ASP Japan合同会社
住所 33 TECHNOLOGY DRIVE, Inc.
IRVINE, CA 92618
国 アメリカ合衆国
電話番号 +1-888-783-7723

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 滅菌製品
使用上の制限 ステラッド滅菌器専用.

整理番号 11389-JP

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS 分類

物理化学的危険性	酸化性液体	区分2
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分4
	急性毒性 (吸入)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分1B
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分3 (気道刺激性)
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	区分2

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

火災助長のおそれ: 酸化性物質。飲み込むと有害。重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。吸入すると有害。呼吸器への刺激のおそれ。水生生物に毒性。

注意書き

安全対策

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。衣類及び可燃物から遠ざけること。ミスト/蒸気を吸入しないこと。取扱い後はよく洗うこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。環境への放出を避けること。保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。火災の場合：適切な消火剤を使用すること。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。

廃棄

内容物／容器を現地、地域、国、国際規則に従って廃棄すること。

GHS 分類に関係しない又はGHS で扱われない他の危険有害性

知見なし。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

重要な徴候

焼けるような痛みおよび重篤な腐食性の皮膚損傷。重篤な眼の損傷。症状には、刺すような痛み、流涙、充血、はれ及び眼のかすみなどがある。失明等の永久的な眼の損傷がおこる可能性がある。呼吸器への刺激のおそれ。消化管の火傷を生じる。

非常事態の概要

火災助長のおそれ：酸化性物質。重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。吸入すると有害。飲み込むと有害。呼吸器系に刺激を起こすことがある。水路に排出されると環境に対して危険である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

官報公示整理番号

化学名又は一般名	CAS番号	化審法	安衛法	含有量 (%)
過酸化水素溶液	7722-84-1	(1)-419	(1)-419	50 - 59.5

化学式

H2O2 (7722-84-1)

組成情報

特に明記しない限り、全ての濃度は重量パーセントで示される。

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。必要に応じて酸素吸入または人工呼吸を行うこと。気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

衣類にかかった場合：服を脱ぐ前に、直ちに汚染された衣類及び皮膚を多量の水で洗うこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。化学やけどは医師による手当てを受けなければならない。

眼に入った場合

直ちに多量の流水で最低15分間眼を洗浄する。洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。コンタクトレンズを外すこと。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。嘔吐させない。もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

焼けるような痛みおよび重篤な腐食性の皮膚損傷。重篤な眼の損傷。症状には、刺すような痛み、流涙、充血、はれ及び眼のかすみなどがある。失明等の永久的な眼の損傷がおこる可能性がある。呼吸器への刺激のおそれ。消化管の火傷を生じる。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

直ちに汚染された衣服を脱がせる。可燃性物質と接触すると火災を起こすことがある。気分がすぐれないときは医療処置についてアドバイスを求める。（可能ならばラベルをみせる）医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。この安全データシートを担当医に見せる。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

医師に対する特別な注意事項

一般的な処置および症状にあわせた適切な治療を施す。化学やけど：直ちに水で洗い流す。洗いながら火傷の部分に付着していない衣服を取り除く。救急車を呼ぶ。病院への搬送中も水洗いを続ける。被災者を保温する。被災者の観察を続ける。症状は遅れて出てくることがある。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧。二酸化炭素 (CO2)。

使ってはならない消火剤

粉末消火剤、または泡。火災を拡散させるので、消火に棒状放水を利用しない。

火災時の特有の危険有害性	可燃性の物質の燃焼率を著しく増大させる。容器は加熱すると内部の圧力が高まり、激しく破裂することがある。容器は加熱されると爆発する可能性がある。火災の際は健康に有害なガスが生成されることがある。燃焼生成物には以下が含まれるおそれがある：水蒸気、酸素。
特有の消火方法	火災や爆発の場合、煙を吸入してはならない。火災の場合：安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。危険でなければ、火災区域から容器を移動させる。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業のための呼吸用保護具の選択：作業現場に示されている一般的な火災注意事項に従う。火災の際は自給式呼吸器および全身保護衣を着用しなければならない。
一般的な火災の危険性	火災助長のおそれ：酸化性物質。可燃性物質と接触すると火災を起こすことがある。
特定の消火方法	通常の消火手順を用いる。影響を受けた他の物質の有害性を考慮する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止する。こぼれやもれが起きている場所から関係者以外を遠ざけ、風上に避難させる。衣類及び可燃物から遠ざけること。清掃中は適切な保護具および防護服を着用する。ミスト／蒸気を吸入しないこと。適切な保護衣を着用せずに、壊れた容器または流出物に触らない。十分な換気を確保する。流出が著しくて回収できない場合は、現地当局に通告すべきである。個人用保護具については、本SDSの項目8を参照。
環境に対する注意事項	環境への放出を避けること。全ての環境流出に該当する管理または監視要員に通知すること。安全を確認してから、もれやこぼれを止める。製品で水を汚染しない。下水や水路、地面への排出を避ける。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	全ての着火源（近くにあるタバコ、炎、火花、火）を除去する。可燃性物質（木材、紙、油など）を流出物から遠ざける。汚染されたところは換気を行ってください。清掃中は適切な保護具および防護服を着用する。この製品は水に混和性である。環境中に排出してはならない。製品を排水施設に流してはならない。

大量の漏出：リスクを伴わずに可能なら、物質の流れを遮断する。可能な場合は漏出物をせき止める。パーミキュライト、砂、土などの不燃性物質に製品を吸収させて容器に回収し、後で廃棄する。製品回収後、その付近を水で洗い流す。

少量の漏出：土、砂またはその他の不燃性物質に吸収させて、容器に移し、後で処分する。残った汚染物を除去するため、床を徹底的に清掃すること。

絶対に流出物を元の容器に回収して再使用してはならない。廃棄物処理については第13項を参照。

二次災害の防止策	もし危険を冒さずにできる場合は、漏れを止める。
回収、中和	該当しない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策（局所排気、全体換気等）	屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
安全取扱注意事項	熱源から離して保管する。可燃物と混合を回避するために予防策をとること。衣類及び可燃物から遠ざけること。ミスト／蒸気を吸入しないこと。眼、皮膚、衣類につけないこと。味を見たり飲み込んだりしてはならない。長時間の接触を避ける。使用中は飲食や喫煙をしない。取扱い後は手をよく洗うこと。環境への放出を避けること。産業衛生に気を配る。SDS第8項で推奨される個人用保護具を使用すること。
接触回避	可燃物と混合を回避するために予防策をとること。詳細についてはSDS第10項を参照。
衛生対策	衣服や他の可燃性物質の近くにおかない。汚染された衣服は素早く取り去って洗う。飲食物から遠ざける。本物質を取り扱った後、飲食や喫煙をする前に手を洗うなど、常に適切な衛生措置をとる。汚染物質を取り除くために定期的に作業衣と保護具を洗う。
保管	
安全な保管条件	施錠して保管すること。熱源から離して保管する。直射日光が入らない、涼しく乾燥した場所に貯蔵すること。容器を密閉しておくこと。換気の良い場所で保管すること。可燃性物質の近くに保管しない。混触危険物質から離して保管すること。（第10項を参照）

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等 標準監視手順に従ってください。

暴露限界値

米国. ACGIH 限界値

成分

タイプ

数値

過酸化水素溶液 (CAS
7722-84-1)

TWA

1 ppm

設備対策

適切な全体換気を行わなければならない。換気回数は状況に合わせる。暴露限界値が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置、その他の装置により、空气中濃度を暴露限界値以下に保つ。暴露限界値が設定されていない場合も、空气中の濃度を適切な濃度以下に抑える。この製品は、洗眼設備および緊急用シャワーがあるところで扱わなければならない。

保護具

呼吸用保護具

換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。

手の保護具

ニトリル製手袋が望ましい。しかし液体は手袋を通して浸透することがあるので注意する。頻繁に交換することが望ましい。直接接触する場合：手袋の材料：ニトリル；層厚：>0.55mm；破過時間：120分。飛沫接触の場合：手袋の材料：ニトリルゴム。層の厚さ：>0.10mm。破過時間：>480分。適切な手袋は、手袋の専門業者に推奨してもらうこともできる。

眼、顔面の保護具

サイドシールドのついた安全眼鏡（またはゴーグル）とフェイスシールドを着用する。

皮膚及び身体の保護具

適切な耐化学薬品性の衣服を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体。

形状

液体。

色

無色。

臭い

無臭。

融点／凝固点

-52℃ (-61.6°F)

沸点又は初留点及び沸点範囲

118℃ (244.4°F)

可燃性

火災助長のおそれ：酸化性物質。

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界

爆発限界－下限 (%)

関連する利用可能な補足情報はない。

爆発限界－上限 (%)

関連する利用可能な補足情報はない。

引火点

> 93.4℃ (> 200.12°F)

自然発火点

可燃性でない。

分解温度

> 100℃ (> 212°F)

pH

1 - 3 (20°C)

動粘性率

0.87 m²/s

動粘度温度

20°C (68°F)

溶解度

溶解度 (水)

水に可溶。

n-オクタノール／水分分配係数 (log 値)

-1.57

蒸気圧

16 mm Hg

密度及び／又は相対密度

密度

> 1 g/ml (20°C) (20°C (68 °F))

相対ガス密度

> 1 推定値

粒子特性

データなし。

その他の情報

絶対粘度	1.25ミリパスカル・s
爆発性状	爆発物でない。
分子式	H2O2
分子量	34.01 g/mol
酸化能力	火災又は爆発のおそれ：強酸化性物質。

10. 安定性及び反応性

反応性	可燃性の物質の燃焼率を著しく増大させる。強アルカリの物質と激しく反応する。本製品は還元剤と反応する恐れがある。
化学的安定性	通常状態で安定。
危険有害反応可能性	一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	熱。分解温度を超える温度を避ける。引火点を超える温度を避ける。混触危険物質との接触。他の化学薬品と混合してはならない。
混触危険物質	強酸。強塩基類。重金属。還元剤。燃焼性物質。汚染。促進剤。
危険有害な分解生成物	酸素。

11. 有害性情報

急性毒性 吸入すると有害。飲み込むと有害。

急急急急(吸入)	
過酸化水素溶液 (CAS 7722-84-1)	区分1
急急急急(経経)	
過酸化水素溶液 (CAS 7722-84-1)	区分4

成分	種	試験結果
過酸化水素溶液 (CAS 7722-84-1)		
急性		
吸入		
LC50	ラット	> 170 mg/m ³ , 4 時間
経口		
LD50	ラット	> 500 mg/kg
経皮		
LD50	ウサギ	> 2000 mg/kg, 24 時間

皮膚腐食性／刺激性 重度の皮膚の火傷を生じる。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 重篤な眼の損傷。

過酸化水素溶液 (CAS 7722-84-1)	区分1
-------------------------	-----

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性 呼吸器感作性物質でない。

皮膚感作性 この製品は、皮膚感作を引き起こすとは思われない。

生殖細胞変異毒性 本製品あるいは製品中に0.1%以上含有する成分に変異原性または遺伝子毒性があることを示すデータはない。

発がん性 ヒトへの発がん性を分類できない。

ACGIH発がん性物質

過酸化水素溶液 (CAS 7722-84-1)	A3 動物に対して発がん性が確認された物質（ヒトに対する発がん性との関連は未知）
-------------------------	--

IARC発がん性評価モノグラフ

過酸化水素溶液 (CAS 7722-84-1)	3 ヒトへの発がん性を分類できない。
-------------------------	--------------------

生殖毒性 この製品は、生殖影響または発達影響を引き起こすとは予想されない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）	呼吸器への刺激のおそれ。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分に該当しない。
誤えん有害性	誤えん有害性でない。
その他の情報	健康に対する急性または慢性的な影響に関して、その他の記録はない。

12. 環境影響情報

環境影響データ

成分	種	試験結果
過酸化水素溶液 (CAS 7722-84-1)		
水生		
急性		
甲殻類	EC50	Daphnia pulex (ミジンコ) 2.4 mg/l, 48 時間
藻	EC50	Chlorella vulgaris (クロレラ・サルガリ) 2.5 mg/l, 72 時間 ス)
魚類	LC50	ファットヘッドミノー (Pimephales promelas) 16.4 mg/l, 96 時間

生態毒性	水生生物に毒性。
残留性・分解性	この製品は生分解性と予想される。
生態蓄積性	本製品は生物蓄積されるとは予想されない。

生体内蓄積の可能性

オクタノール／水分配係数

過酸化水素溶液 (CAS 7722-84-1)	-1.57
-------------------------	-------

土壤中の移動性	この製品は水に溶ける。土壤中で移動すると予想される。
オゾン層への有害性	データなし。
他の有害影響	本製品はpHが低いいため、水生生物や水生生態系に暴露すると、重大な環境毒性を生成すると考えられる。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	現地の規定に従い、処分する。現地の規定に従い、処分する。空の容器または内張には製品残渣が残っているおそれがある。この物質およびその容器は、安全な方法で廃棄しなければならない。
汚染容器及び包装	製品の残余物が残っているかもしれないので、容器が空になった後もラベルの警告に従う。空の容器はリサイクルまたは廃棄のために、承認された廃棄物処理施設に運ばなければならない。
地域の廃棄規制	廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。本物質を下水／水道供給経路に流入させてはならない。薬剤または使用済容器で、池、水路、溝を汚染しないこと。内容物／容器を現地、地域、国、国際規則に従って廃棄すること。自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上産業廃棄物処分量の許可を受けた業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて、処理を委託する。

14. 輸送上の注意

IATA

UN number	2014
UN proper shipping name	Hydrogen peroxide, aqueous solution
Transport hazard class(es)	
Class	5.1
Subsidiary risk	8
Packing group	II
Environmental hazards	No.
ERG Code	5C

Special precautions for user Read safety instructions, SDS and emergency procedures before handling. STERRAD™ Boosters are allowed to be shipped by air in Excepted Quantities per UN2014 (40-60%) Special Provision A75.

IMDG

UN number 2014
UN proper shipping name HYDROGEN PEROXIDE, AQUEOUS SOLUTION
Transport hazard class(es)
Class 5.1
Subsidiary risk 8
Packing group II
Environmental hazards
Marine pollutant No.
EmS F-H, S-Q
Special precautions for user Read safety instructions, SDS and emergency procedures before handling.

MARPOL73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質 未確定。

一般情報 本製品は、微量危険物として出荷される危険物に関するすべての当局の要件を満たしている。

国内規制 国内輸送については15項の規制に従うこと。

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 取り扱いの前に安全指示、SDSおよび応急処置法を読むこと。

15. 適用法令

労働安全衛生法

危険物 酸化性物質類

通知対象物

過酸化水素 別表第9 政令番号 126 50 - 60 %

表示対象物

過酸化水素 50 - 60 %

毒物及び劇物取締法

特定毒物

該当しない。

毒物

該当しない。

劇物

過酸化水素を含有する製剤

過酸化水素を含有する製剤

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律

第一種特定化学物質

該当しない。

第二種特定化学物質

該当しない。

監視化学物質

該当しない。

優先評価化学物質

過酸化水素

化学物質排出把握管理促進法

特定第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当しない。

第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当しない。

第二種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当しない。

消防法 第六類過酸化水素

船舶安全法・危規則 酸化性物質類

航空法・施行規則 該当しない。

火薬類取締法

該当しない。

海洋汚染防止法

過酸化水素溶液(濃度が八重量パーセントを超え七十重量パーセント以下のものに限る.)

過酸化水素溶液(濃度が八重量パーセントを超え七十重量パーセント以下のものに限る.)

16. その他の情報

引用文献

ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices

ECHA登録物質データベース HSDB® - Hazardous Substances Data Bank

IARC発がん性評価モノグラフ

日本化学工業協会 (JCIA) GHSガイドライン、2012年6月

日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告

JIS Z 7252 : 2019 GHS に基づく化学品の分類方法

JIS Z 7253 : 2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)

ASP Japan合同会社 は、本情報と当社製品、または当社製品と他のメーカーの製品の組み合わせが使用されるあらゆる状況を予測できるわけではありません。製品の処理、保管および処分を行う際に安全な状況を確認するのはユーザーの責任であり、ユーザーは不適切な使用による損失、傷害、損害または費用に法的責任を負います。シート情報は、現在入手できる最高の知識と経験に基づき記入されています。